

地方独立行政法人天王寺動物園の業務実績評価シート

別紙

(令和4年度中実績・令和5年度評価)

【大項目評価点】
 S：特筆すべき進捗状況
 A：計画どおり
 B：おおむね計画どおり
 C：やや遅れている
 D：重大な改善事項あり

【小項目評価点】
 V：計画を大幅に上回って実施している
 IV：計画を上回って実施している
 III：計画を順調に実施している
 II：計画を十分実施できていない
 I：計画を大幅に下回っている。

【小項目評価（V～I）の大項目評価（S～D）への反映の考え方】
 ●小項目について、おおむねⅢの評価であれば、大項目はB評価を基本とする。
 ●大項目について、B以外の評価を行う場合は、小項目の評価でⅣ以上の高評価・Ⅱ以下の低評価となっている項目について、単に項目数ではなく、中期目標の達成度等を考慮し、総合的に判断の上、その理由を示す。

大項目（中期目標より）				小項目（R4年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による動物園の魅力向上	A	・ JAZA(日本動物園水族館協会)の個体群管理計画に基づく種別管理で新たに3種の専門技術員を受嘱するなど、他園との信頼構築に努めた。これは展示動物の計画的な導入・確保にも繋がる取組であり、評価できる。 ・ イベント数を増やすだけでなく、行動変容を促す取組を実施し、参加者からも行動変容につながる回答が見受けられる。 ・ 上記より、計画どおり進んでいることからA評価とする。	1	動物導入計画を踏まえた具体的な取り組み（準備・交渉を含む。）を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	・ 項目2（種別管理等の担当）について、独法化したことにより飼育担当の新規採用が増え、種の保全事業にも積極的に取り組んでいることは、当法人の信頼を高めることにつながり、高く評価する。 ・ 項目4（イベントの実施）について、来園者の行動変容を促す魅力的なイベントを提供していると評価できる。
				2	JAZAの個体群管理計画に基づく種別管理等を継続して担当する。（ヨウスコウワニ・ホッキョクグマ・シシオザル等）	Ⅲ	Ⅳ	
				3	JAZA、WAZAの学術研究部や普及啓発部の開催する研究会等並びに地域別会議等に参加・協力し、園内で内容を報告する。	Ⅲ	Ⅲ	
				4	昨年度の検証を踏まえイベントを実施するとともに、結果を検証し、必要に応じ実施内容やイベントに関する指針に反映させる。	Ⅳ	Ⅳ	
				5	昨年度に実施した近隣商業施設や交通機関等との連携イベント等の検証を踏まえた取り組みを行うとともに、結果を検証し、必要に応じ実施内容や前項指針に反映させる。	Ⅲ	Ⅲ	
				6	広報戦略（R3策定）に基づいた情報発信を行うとともに、実績を検証し、必要に応じて有識者の意見を聞くなどして、戦略に反映させる。	Ⅲ	Ⅲ	
				7	前項戦略に基づきホームページの多言語化を拡充する。	Ⅲ	Ⅲ	
				8	昨年度策定したホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取組（研修、研修効果定着のための取組など、研修効果チェック）を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R4年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 動物展示の充実と快適な園内環境の創出による動物園の魅力向上	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ JAZA(日本動物園水族館協会)の個体群管理計画に基づく種別管理で新たに3種の専門技術員を受嘱するなど、他園との信頼構築に努めた。 ・ イベント数を増やすだけでなく、行動変容を促す取組を実施し、参加者からも行動変容につながる回答が見受けられる。 ・ 上記より、計画どおり進んでいることからA評価とする。 	9	継続して、定期点検を実施し、美観保持に努める。	Ⅲ	Ⅲ	
				10	広報戦略（R3策定）に基づく園内の情報提供を行うとともに園内掲示物整備アクションプランを策定する。（第1四半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				11	ホッキョクグマ舎の実施設計を、ユニバーサルな観覧環境に配慮したものとする。	Ⅲ	Ⅲ	
				12	継続して、来園者の声を分析し園運営に反映する。（HP・SNS含む。）	Ⅲ	Ⅲ	
				13	昨年度拡充したクレジット払いの運用実績や来園者など関係者の声を踏まえ、園の決済環境を網羅的に検討のうえ、さらなるキャッシュレス拡充にかかる方針を決定する。	Ⅲ	Ⅲ	
	2 動物の生態等に関する理解や関心を深めるための教育活動の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月にオープンしたふれんどしっぷガーデンにおいて、展示動物のQOL向上が図られるとともに、アンケート結果からも来園者の満足度を確保できていることが分かった。 ・ 教育普及アクションプログラムに基づき、ズースクールなど各種メニューを継続実施している。 ・ 今後はボランティアクラブもより一層充実した取組を実施してほしい。 ・ 上記より、おおむね計画どおりであることからB評価とする。 	14	ふれあい事業に関する方針を踏まえたプログラムに基づき新ふれあい広場の運営を行い、実績を検証のうえ、必要に応じてプログラム若しくは事業に関する方針を修正する。	Ⅳ	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 項目14（ふれあい事業）について、「直接接触しないふれあい」という新しい考えのもと、実績を上げているのはすばらしい。 一方、大項目は「教育活動の推進」が評価基準であるため、教育効果向上の成果が確認できるとなお良い。
				15	教育普及アクションプログラム（R4版）に基づいたメニューを実施するとともに、結果を検証し、必要に応じて他メニュー、プログラムに反映する。	Ⅲ	Ⅲ	
				16	新たなボランティア制度をスタートさせる。（第3四半期）	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R4年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	3 動物福祉に配慮した飼育管理と高度な飼育技術の確立	A	・独法化したことにより直営時に比べ飼育スタッフの体制が充実しているなか、前年度より対象種を拡充するなど、環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングを着実に継続実施し実績を上げている。中期目標で動物園経営における最重要事項としている「動物園の主役である動物たちが健康で幸せに暮らせる環境を創出する飼育管理機能の強化」が順調に行えていることから、計画どおり進捗しているためA評価とする。	17	ヒヤリハット事例の共有や飼育作業マニュアルの実施状況の定期的な確認と、必要に応じた改訂を継続する。	Ⅲ	Ⅲ	・項目18（動物福祉の取組）について、飼育管理機能の飛躍的な成果だけでなく、組織的に取組状況を把握していることがすばらしく高く評価できる。
				18	環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングに関する方針（R3策定）に基づき、取り組み中の種について継続実施するとともに、効果を検証し、実施種数を増やす。	Ⅲ	Ⅳ	
				19	新病院の基本計画作成につながる「新動物病院計画の与条件整理表」を作成する。	Ⅲ	Ⅲ	
				20	ペンギンアシカ舎、ホッキョクグマ舎等獣舎の計画に応じた設計や整備を着実に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				21	維持管理計画に基づく点検維持管理を着実に実施しつつ、第1期リニューアル計画を反映した維持管理計画を策定する。	Ⅲ	Ⅲ	
				22	当面新築が予定されない既存獣舎について、動物福祉の観点から小規模改良計画を策定する。	Ⅲ	Ⅲ	
	4 繁殖及び調査研究活動の推進	A	・大阪府産ニホンイシガメの保全活動としてクラウドファンディングで調達した資金を用いて爬虫類生態館（アイファー）の改修を行うなど、種の保全に貢献する繁殖活動の推進に向けた取組を着実に実施できた。 ・新たに大学連携協定を締結できている。 ・上記より、計画どおり進捗していることから、A評価とする。	23	昨年度定めた繁殖推進種ごとの繁殖に向けたチェックポイントの項目を継続実施するとともに、必要に応じて対象種及びチェックポイントを見直す。	Ⅲ	Ⅲ	・項目25（保全活動）について、大阪府産ニホンイシガメの保全をテーマにして、クラウドファンディングにより、展示のリニューアルに結びつけている。これは国内でも種の保全に貢献する先進事例であり高く評価できる。
				24	昨年度に確立した人工授精手技で引き続きオグロヅル、ソデグロヅルの繁殖を目指した取り組みを実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				25	大阪府産ニホンイシガメの保全活動に引き続き取り組むとともに、新たな種の保全活動の啓発等についても取り組む。	Ⅳ	Ⅳ	
				26	「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」（R3策定）の行動スケジュールに沿って実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				27	従来連携先に加えて、昨年度に連携協定を締結した大学・機関との取り組みを進める。	Ⅳ	Ⅳ	
				28	ホームページ等で大学等との研究機関との協定による研究実績や、取り組み段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図る。	Ⅲ	Ⅲ	
				29	研究の成果については、研究会等において発表を行う。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R4年度計画より）				評価委員会意見	
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価		
2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	1 自律的な組織経営	B	・機動的な組織体制の構築に向けた取組を行っており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	30	引き続き、研修やホームページ等で法人の目指す姿を情報発信・共有するとともに年報をホームページで公表するなど情報発信の充実を図る。	Ⅲ	Ⅲ	・着実な取組を評価するが、効果的な制度提案とその実行を期待したい。	
				31	法人内でのヒアリング等により組織の役職や人員数の改編・補充について点検し、必要に応じて対応する。	Ⅲ	Ⅲ		
				32	各種業務の実施にあたり、外部の専門人材登用が必要かどうかを検討する。	Ⅲ	Ⅲ		
	2 人材の確保・育成と職員の能力向上・意欲喚起	B	・研修メニューの拡大にとどまらず、業務内容に応じた研修手法を選択するなど創意工夫がみられる。また、資格取得支援〔飼育技師（上級）2名合格〕でも成果がみられる。 ・引き続き人材育成面においてインセンティブが働く制度構築が望まれる。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	33	人材育成方針及び計画に基づき各種人事業務を実施するとともに、必要に応じて方針及び計画を修正する。	Ⅲ	Ⅲ		
				34	人材育成方針及び計画に基づき研修を実施するとともにアンケート、効果、業界で求められるスキルを踏まえ研修計画を随時見直す。	Ⅲ	Ⅲ		
				35	資格取得支援の仕組みを浸透させ、必要に応じて支援対象資格を追加する。	Ⅲ	Ⅲ		
				36	引き続き人事評価制度を運用するとともに、制度内容を検証のうえ、必要に応じて制度を見直す。	Ⅲ	Ⅲ		
	3 効果的・効率的な業務執行	B	・PDCAサイクルに基づいて各種制度を運用できている。 ・動物カルテシステムと飼育記録については統合運用が困難であることが判明し、連携できなかったが、別の枠組みによるプラットフォームの構築にも取り組んでいる。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	37	年度計画の進捗状況を四半期毎に確認し、市ともその内容を共有する。その際、達成状況や令和3年度の市評価等を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。	Ⅲ	Ⅲ		・着実かつ安定した取組を評価するが、効果的・効率的な制度提案とその実行を期待したい。
				38	引き続き、人事財務分野において導入した各種機器の安定運用を図るとともに、担当者変更等に伴う引継ぎを着実に実施する。	Ⅲ	Ⅲ		
39				動物カルテシステムの日常飼育・トレーニング分野への試行実施（R3）を踏まえ、本格実施する。	Ⅱ	Ⅱ			

大項目（中期目標より）				小項目（R4年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
3 財務内容の改善に関する事項	1 収入の確保	B	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度より入園料収入、入園料外収入いずれも増加しているものの、一部の入園料外収入については目標値に届かなかった。 ・しかしながら、収入を維持、拡大するため渉外活動を行ったり、9月よりオンラインショップを開設するなど、収入確保の取組は一定程度評価できる。 ・今後はターゲットを明確にした上で、より大きな視点からファンドレイジング戦略を立て、さらなる取組を実施してほしい。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。 	40	入園料収入3.2億円・入園者数120万人を目標とする。（令和4年度予算）	Ⅲ	Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目について、成果だけでなく、各取組の戦略性が見えるように工夫を期待したい。 ・コロナ禍ということもあり予算や目標を立てにくかったかと思うが、今後は目標値と予算の関係性を明らかにすることを期待したい。
				41	継続してファンクラブ募集に取り組み、会費収入額を前年度比1.2倍を目標とする。	Ⅱ	Ⅱ	
				42	既実施のクラウドファンディングの実績を検証し、ファンドレイジングの観点から、適用メニューや次回実施時期を検討する。	Ⅲ	Ⅲ	
				43	営業実績（R3）の検証を踏まえた営業計画（R4）に基づき営業を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				44	寄附額25百万円を目標とする。（令和4年度予算）	Ⅳ	Ⅳ	
				45	時宜を得たオリジナルグッズの開発・販売を展開する。	Ⅳ	Ⅳ	
	2 経費の節減	B	<ul style="list-style-type: none"> ・独法化後の柔軟な契約手法を活かして獣舎リニューアル整備事業の契約を締結するなど、経費の抑制に努めている。 ・上記より、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。 	46	昨年度までに設置した水道子メーターによる使用量を引き続き検証する。検証により漏水の可能性のある場所については調査し、漏水が特定された場合に修繕を行う。	Ⅲ	Ⅲ	
				47	当法人で着手するすべての獣舎整備（ホッキョクグマ舎、アジアの森等）で直営時代と比べて1割のコスト縮減を図る。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R4年度計画より）				評価委員会意見
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価	
4 その他業務運営に関する重要事項	1 内部統制の強化	B	・前年度から内部統制にかかる取組を適切に実施しており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	48	内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。	Ⅲ	Ⅲ	
				49	リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				50	規程類について、新規採用者及び転入異動職員に研修する。（上半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				51	諸規程類の運用状況を確認のうえ、必要に応じて見直し若しくは新たに整備するなどの対応を行う。（下半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				52	当園のみならず、設立団体や他団体のコンプライアンス事例をもとにグループ討議を行うなど参加型の研修を最低年1回は実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				53	各業務において個人情報扱う事務の棚卸を行い、漏洩リスクのあるポイントを明確にし、各種事務における作業上の重要管理ポイントの策定・改廃を行う。（上半期） また、重要管理ポイントが順守されているかどうかの点検を行う。（下半期）	Ⅲ	Ⅲ	
				54	内部監査・監事監査を実施のうえ、必要に応じて内部統制環境の見直しを実施する。	Ⅲ	Ⅲ	
				55	必要に応じてセキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を検証のうえ、必要に応じて改訂を行うとともに、設立団体並みの研修を実施する。	Ⅲ	Ⅲ	

大項目（中期目標より）				小項目（R4年度計画より）				評価委員会意見	
番号	内容	評価	評価の理由	番号	内容	法人評価	市長評価		
4 その他業務運営に関する重要事項	2 来園者の安全確保	B	・リニューアル整備事業の実施に向け、来園者・飼育動物を含む全ての関係者に配慮した安全対策を講じており、おおむね計画どおりであることから、B評価とする。	56	今年度、設計若しくは工事を実施する全ての案件において、設計上・工事施工上の観点から来園者及び職員の安全対策に配慮する。	Ⅲ	Ⅲ		
				57	獣舎及び園内施設の定期点検を着実にを行う。	Ⅲ	Ⅲ		
				58	令和3年度に引き続き、受託事業者への安全意識の徹底に加えて、職員と合同での災害・猛獣脱出訓練及び研修で、より質の高い体制とするための方策を検討する。	Ⅲ	Ⅲ		
				59	法人と委託先事業者が協力のうえ、新型コロナウイルスの感染状況に応じた適切な対策を講じる。（職員の健康管理を含む。）	Ⅲ	Ⅲ		
	3	職員の安全衛生管理	B	・現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。	60	引き続き、安全衛生管理体制の確立と職員の健康保持のための取り組みを進めるとともに健診等を着実に実施する。	Ⅲ		Ⅲ
	4	環境に配慮した取組の推進	B	・現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。	61	令和3年度に策定公表したSDGsへの取り組み方針を実施する。	Ⅲ		Ⅲ
5	情報公開の推進	B	・現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。	62	業務に関する年報（Annual Report）を公表する。（上半期）	Ⅲ	Ⅲ	・安定した取組を評価するが、見やすさなどを工夫して年報を充実させるなど、更に魅力的な情報発信を期待したい。	
6	BCPの策定	B	・現時点ではおおむね計画どおりであることから、B評価とする。	63	事業継続計画の周知と意見交換を踏まえ、必要に応じた改訂を実施する。	Ⅲ	Ⅲ		

■全体評価

【市長評価】

全体を通しておおむね計画どおりに進捗できている。
独法化以降特に力を入れてきた動物福祉に関する取組について、順調にその内容を拡大することができており、中期目標にある「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指し、園の信頼度向上につなげている。
獣舎整備についてはクラウドファンディングによる新しい収入確保の取組を実施するなど工夫をしつつ、複数獣舎の一括発注により整備の効率化に努めたことによって、相乗的に動物福祉に貢献できている。
また、独法化したことのメリットを活かし、動物福祉等の専門知識を有する人材の採用を積極的に進めるとともに、大阪府産ニホンイシガメの保全にかかるクラウドファンディングや寄附により確保した財源を即時的に整備等に活用し、特に爬虫類生態館（アイファー）の整備を短期間で完了させたことは、動物福祉の取組推進とともに、計画の推進に大きく寄与していると言える。
今後も引き続き独法化したことによる効果を最大限に引き出しつつ、より効果的に入園者やファンクラブ会員を増やすことで収入の増加につなげていくなど、動物園の魅力向上につながる取組が進むことを期待する。

【評価委員会意見】

全体を通して、独法化以降、動物園の重点課題である動物福祉に関する取組は飛躍的に成長している印象である。特にふれんどしっぷガーデンのふれあい事業の取組や大阪府産ニホンイシガメの保全に関する整備については、一定の成果を上げており、市の評価のとおりである。
一方、動物園の魅力向上を含む経営（企画・営業）については、取組の戦略性に課題も見られ、外部の知見を取り入れるなど積極的に取組んでもらいたい。
また、5年間の体系的な評価を行う仕組みについて市と法人で知恵を出し合い更に工夫するなどして、評価を活かしながら、今後も世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として発展していくことを期待する。
業務運営に関しては着実かつ安定した取組を継続するとともに、目的達成のための自発的積極的な取組を今後期待したい。